



TITLE:

西方亞細亞に於ける新興諸國

AUTHOR(S):

CITATION:

西方亞細亞に於ける新興諸國. 地球 1924, 2(6): 680-683

ISSUE DATE:

1924-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/182784>

RIGHT:

西方亞細亞に於ける新興諸國

一、イラーク 二、シリア 三、パレスタイン 四、ケラック

一、イラーク王國 Iraq (メソポタミア)

メソポタミア地方に建設された王國で境界未確定の地もあれど概略一三四、二五〇方哩と稱す。人口凡二八五萬(一九二〇年調)、この地方は元土耳其領なりしを以て聯合軍側に征服されたが戰後國際聯盟管理の下に英國の委任統治國となつた。一九二一年八月ヘヂヤス王の第三子ファイサルは國民九六%の投票を得て王位に即位した。一九二二年十一月英國と特別の條約を結び英國は銳意内政の改革を計りつゝあり。

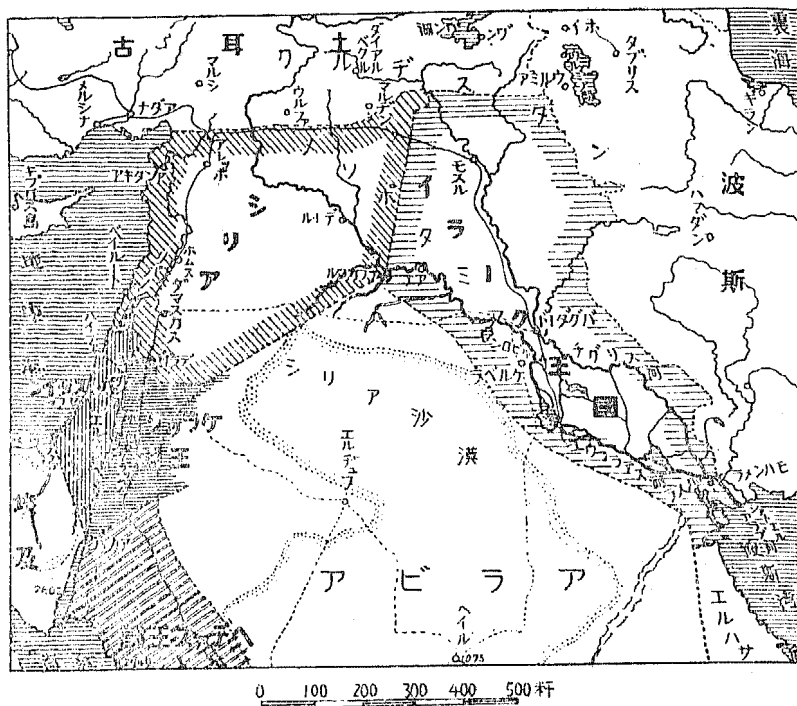
産業は大いに囑望され居るも未だ開發普ねからず。石油は鑛產物中の主なるものでモスル附近のクアイヤラ Qaiyarah バグダードの東北マシナンドリ Mandali は特に知られてゐる。エウフラテス河沿岸のヒット Hit よりは地瀝青を産す。土地概して乾燥なれど肥沃なるため灌漑により

て小麦・大麥・綿・波斯栗・米・落花生等の栽培行はる。外國貿易は主としてバスラ、バグダードの二港によりて行はれ、輸出品は絨氈と穀物で約六千四百四十萬圓、輸入品は綿糸類を主とし五〇%を占め砂糖これに次ぎ約一億三千四百七十萬圓に及ぶ(一九二一年調)輸入品の大部は再び波斯に輸出せられる。有名なるバグダード鐵道を始めチギリス・エウフラト兩河の沿岸には數多の鐵道敷設されて、漸次に開發されつゝあり。(一)

二、シリア(佛國委任統治) Syria

亞細亞トルコのシリアは國際委任統治の下に自治國となれり、即一九二〇年四月二十五日サンレモの聯合國最高會議に於て、佛國に委任せらるゝこととなり、後一九二二年七月二十三日の國際聯盟會議に依り確認せらるゝに至れり、

西方亞細亞に於ける新興諸國



北は土耳其、東はメソポタミア、南はパレスタインに接し、西は地中海に臨む、パレスタインとの國境は一九二一年十月二十日の佛土條約に依り設定せらる、シリア自治團體は一九二二年六月二十八日制定の規約によるものにして之が行政はシリア總督監督の下に各地の代表者に依り行はるゝものなり。シリアの人口は正確なる調査なきため明確ならざるも大略左の如し。

マホメダン 一、〇一九、八五七人
 キリスト教徒 一六七、六〇一
 レバノン人外國人 一五、三一六
 猶太教徒 一〇、六四二
 イスマリアレ 一四、二二八
 其他 二二六、九二二
 計 一、四六四、五六六
 この外レバノン地方に六七二、四七九人ありこの地方はもと所謂シリア

自治團體に加入を好まざりしが元來通貨を同うし習慣の等しき關係上一九二三年一月三十日合同して同一の行政區劃となる。

最近一兩年の貿易は世界的恐慌とシリア爲替下落のため極めて逆調なり、輸出入各六億佛法内外なり、産業は農を以て主とし養蠶を奨勵す。中央政府の所在地はベイルート港にして大シリア中第三位なり、第一の大都會はダマスカスにして人口五十六萬絹織物の中心地なり、これにつぐものをアレツボとす、戦後本邦商品の輸入あり燐寸雜貨の輸入高年僅に四十四萬千法に過ぎず。(F)

三、パレスタイン P. Palestine

大戦中英國に征服されてから其の軍政の下にあつたが一九二〇年一月から民政が布かれてゐる。英國の委任統治に屬す。境域は西は地中海に面し、南はラーファ Rafā の西からアカバ灣頭のターバ Tabā に至る線、北及東境は地中海岸のラスエルナクラ Ras-el-Nakura から東し次に北してメチュラ Metulla に、ヨルダン谿谷

を横斷してバニアス Banias に至り、更に山麓をフレー湖・ヨルダン河・チベリアス湖の東岸に南下し、湖岸を東にはなれてエル・ハンメ Hamme に達す。これよりヨルダン河に沿ふて死海の中央を境として南下しアカバ灣頭のアカバの西北に終る。面積九千方哩、人口七十五萬七千(一九二二年調)、内回教徒大部を占め五十九萬人、猶太人八萬人、キリスト教徒七萬人を主とする。産物は小麥・大麥・蜀黍・橄欖・扁豆・煙草等の農産の外羊・山羊・駱駝・水牛等の畜産、並にヨルダン谿谷、死海岸の岩鹽・硫黃・礦油類も囑望されてゐるが採掘不十分である。輸出品は橙・石鹼・甜瓜等約百三十八萬圓、輸入品は綿糸類・鐵器・砂糖等約五百四十三萬圓(一九二二年調)、主要貿易港はヤファ Jaffa ハイファ Haifa アクア Akka ギャザ Gaza 等、これ等の海岸よりは内地に鐵道通じ、内地の首都はエルサレム(人口六萬三千)である。(T)

四、ケラク王国(トランスヨルダニア) Kerek
英國のパレスタイン委任統治區域中に包含せ

れてゐる新獨立である。國王アブズラー・イブン・フッシン Abdullah Ibn hussein はヘヂヤス國王フッシン一世の第二子で、イラーク國王の兄に當る。一九二一年に獨立を謀り、一九二三年三月に英國の承認と之れの助力によつて内政の充實を計りつゝある。

領域のうち東方バレストインとの境界線については同地方の記事に盡した通りである。北方シリアとの境界はヨルダン河の中流に於て東流して會するヤルムク Yarmuk 河の河口を起點として、ヘヂヤス鐵道支線の南方をこの河に沿ふて東進し、地圖に記した如く東北にエウフラテス河上流の都邑アブ・ケマル Abu Kemal に達する。東方南方の國界は未定であるが、南方ヘヂヤスとの國境はアカバの東より東北に至る舊バレストインとヘヂヤス王國との境界をとるのが妥當と思はれる。

面積は未定、人口は三十萬乃至五十萬人と推定されてゐる、アラビア人及び回教徒を主とし、住民の約半は聚落をつくるも、他は遊牧である。

ヨルダン谿谷とヘヂヤス鐵道沿線の外は國內の大部分は沙漠であるが農產畜產の外燐礦・加里・石油等をも産す。(○)

○蘇士運河の遺跡

地中海と紅海とを何等かの方法を以て連結せんとするの念を生じたるは餘程昔の事にて水閘存在の舊跡は今尙依然として蘇士附近にあり、かの埃及王セチ一世の開鑿せし運河の床はラメス大王之が繼續をなし、其後波斯王大流士は從來の計劃を聊か改正して之を完成したるものにて其舊跡は蘇士よりナイル河に至るアバチス(現在のザガジク)に於て現時運河の西堤より徒歩半時間なるグートチフォーヒツク、ピター湖間の諸所にあり、後年羅馬皇帝トラヤヌはこの水路の一部を再興せんせしことありて後カリフ、オマルによりて浚渫せられ紀元九世紀末葉迄は有用なしと云ふ。